

# 同じ先生で、同じ教材で習って なぜ皆成績が違うのだろう

志学院塾長 熊谷稜昭 (転載引用不許可)

私が予備校生だった頃（昭和の後半）のお話です。その予備校は当時毎年のように東京大学に約1800名程の合格者を出していました。成績順にクラス教室をA組、B組、



C組・・・と分け、各教室には250名以上も生徒がいました。各教室では、左側から右側に成績順に席が決められて各行には15席ぐらい？あり1行目、2行目、3行目・・・と成績が下になっていきます。

どのクラスの教室か忘れましたが、前から4～5行の真ん中ぐらいに私の席がありました。私の左側にはワタナベ君、右側はアオヤギ君でしたが二人とも同じ高校を卒業していました。現在でも日本で一番多く東京大学に合格するとされている有名な私立の中高一貫校です。私は東北の田舎の公立高校出なので、東京でスマートに育った彼等が羨ましく思っていました。しかし、隣同士慣れるに従ってお互いが仲良くなっていき、彼らの人柄も優れていたのです。私は彼等から学ぶことも多かったと思います。また、彼等の卒業した高校の生徒

もその予備校には何人もいて、二人を通じてその人達とも友達になることができ、友達には恵まれました。



ある日のこと午前中に授業が終わって皆で駅にむかって歩きながらの話題を今でも忘れることができません。

「僕らの前にいる生徒はなぜ成績が僕らより上になるのだ？」

「そうだよな。同じ先生で、同じ教材で、同じく一日は24時間で……なぜ成績が違うのだろうか？僕らもちゃんと勉強しているのに……」

その日はワケがわからないまま何も結論が出ないで皆帰宅しました。

あなたはなぜだと思えますか。「それが能力差」と言うものでしょうか。「頭の良さ悪さ」だからでしょうか？もしそうだとすれば順位は永遠に固定化してしまはずです。実際、次の段階での席順はクラス順位も含めて皆バラバラになってしまいました。何故でしょうか？

私が塾をやるようになってハッキリ分かったことですが、塾は「質の高い、いい授業」に当然力を入れるべきですが、残念ながら

「いい授業」「いいテキスト」「いい講師」

だけで成績を上げるのは、必ずしも簡単ではありません。

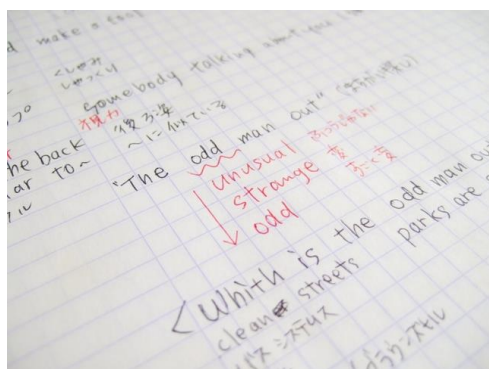


殆どの生徒はこれらを求めて塾へ行くのですが、これで必ずしも万全ではありません。学力を上げる「学習の仕方」と「生活の仕方」の二点が、画竜点睛（ガリョウテンセイ）のごとく最重要ポイントなのです。

意外にも多くの人々がこれに気付いていないようです。

「僕もちゃんと勉強しているのに……」

同じような立場のあなただっけ言いたいのではないですか？



学習する際、英語には英語の独特の学習法があり数学には数学の独特の学習法があります。国語、理科、社会も独特の学習法がそれぞれあります。皆さんの周りにもいませんか？

英語はトップクラスだけれど数学はパツとしないという人を。またはその逆の人を。理由は英語も数学もその人のこだわりやクセやパターンで一律に進めているからです。

学習法が間違っていた場合、努力の割に成績の伸びは絶対にありません。

我田引水（ガデンインスイ）を恐れ、恐縮しながら申し上げるのですが、志学院は「英語を教える」「数学を教える」「何教科を教える」だけの指導で終わっていないことです。例えば、「独特の学習法」の中で志学院独自の「英単語のマスター法」とか「数学の得点を確実に上げる攻略法」とか志学院が自信をも

って指導し実績を上げている学習法が多くあります。

しかし、志学院の最も大事なもう一つの指導は、皆さんの日々の生活習慣の見直しをお願いしていることです。能力が同じであっても生活習慣から来る学力差は事実無視できない程の大きいものになります。



学力向上にマイナスになる生活習慣を「生活習慣病」と志学院では呼ぶことにしています。それ程学力向上にとっては恐ろしいマイナス要因です。

志学院の指導の根幹の「学習の仕方」と「生活の仕方」の二点、これが軌道に乗れば飛躍的に成績が向上していきます。